

第2章

本市における南アルプスユネスコエコパークの構成要素

1. 本市に位置する構成要素

※文章中、右上に「*」のマークがある単語は、巻末に用語解説を掲載しています。

第2章 本市における南アルプスユネスコエコパークの構成要素

1. 本市に位置する構成要素

本市における南アルプスユネスコエコパークの構成要素を、3つの機能別に示します。

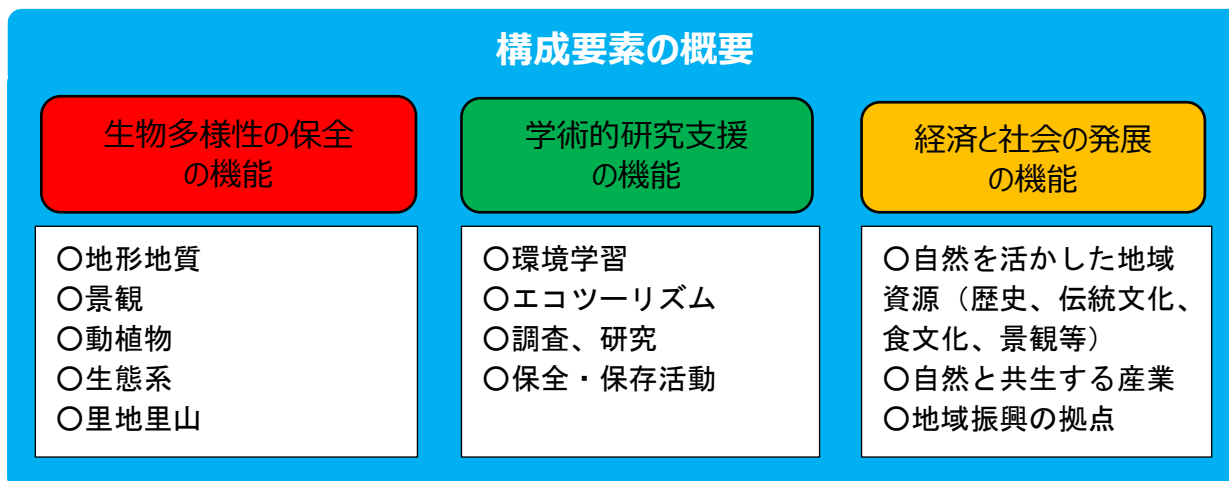


図 11 構成要素の概要

(1) 生物多様性の保全の機能

①多様な地形地質が織りなす景観

南アルプスは日本有数の山岳地帯で、本市は3,000m級の山岳を10座有しています。北アルプスに比べて山体が大きく、稜線付近が比較的なだらかなことが特徴で、温暖多雨な気候と山体の急速な隆起によって深いV字谷*や崩壊地*が発達しています。

標高2,600m以上の高山帯には、日本最南端の氷河地形*が残されており、地中の水分が凍り、溶け、また凍る、という現象を繰り返すことで形成される周氷河地形も見られます。また、地史を示す顕著な見本となる特徴的な地形地質が観察できる“ジオサイト”も存在します。

南アルプスは日本有数の多雨地帯であり、多量の雨が勾配の急な河川を流れるため、南アルプスを源流とする大井川は、日本を代表する急流です。また、駿河湾に向かって南方面へと流れる大井川は、北東から南西方面へと連続している砂岩や泥岩せんいゆうだこうからなる固い地層に阻まれながら流れるため、ジグザグと蛇行して流れていきます。これを「穿入蛇行」といい、特有の景観を生み出しています。

表3 構成要素（多様な地形地質が織りなす景観）















区分	構成要素	エリア
氷河地形	●カール*（圏谷）、モレーン（堆石）  観察できる場所：間ノ岳、塩見岳、荒川三山、赤石岳など	核心地域
周氷河地形*	●岩塊（岩海）斜面*  観察できる場所：間ノ岳・農鳥岳や赤石岳など	核心地域
	●岩石氷河*  観察できる場所：荒川三山、赤石岳など	核心地域
	●ソリフラクションロープ*  観察できる場所：丸山、大聖寺平	核心地域
	●階状土*、線状土  観察できる場所：ダマシ平、丸山	核心地域
	●亀甲状土*・アースハンモック*  観察できる場所：大聖寺平、上河内岳（上河内岳と茶臼岳の間地点）、光岳からイザルガ岳間のセンジヶ原など	核心地域
	●雪食カール*  観察できる場所：塩見岳や赤石岳	核心地域
深層崩壊	● <small>せんじょうおうち</small> 線状凹地*  観察できる場所：間ノ岳、荒川前岳、赤石岳、上河内岳など	核心地域
	●崩壊地形（上千枚崩、赤崩、ポツチ窪）  観察できる場所：千枚岳、青蘆山	移行地域
河川地形	●V字谷  観察できる場所：赤石沢、西俣など	核心地域 移行地域
	●穿入蛇行  観察できる場所：大井川（接阻峡、新井川溪谷、二軒小屋）	移行地域
ジオサイト	●緑色岩、枕状溶岩*  観察できる場所：塩見岳、悪沢岳、聖岳登山道、茶臼岳	核心地域
	●赤色チャート*、白色チャート  観察できる場所：塩見岳、悪沢岳、聖岳、上河内岳	
	●メランジュ*  観察できる場所：千枚岳、聖岳など	
	●チャート層の褶曲  観察できる場所：上河内岳から茶臼岳間（竹内門）	
	●石灰岩のトア*（岩塔）  観察できる場所：光岳（光岩）	
	●榎島周辺のジオサイト群（河川争奪*地形、線状凹地、白根帯の赤色チャートを含む海洋底岩石、メランジュおよび寸又川帯の砂岩泥岩互層の褶曲構造*等）  観察できる場所：榎島周辺	移行地域



図 12 多様な地形地質が織りなす景観

写真：狩野謙一（静岡大学）※1

写真：『大井川上流部のジオツアーガイド 静岡市委託・南アルプス（静岡県側）ジオツアーコース調査選定等業務報告書』※2

上記以外は『南アルプス学術総論』

②貴重な動植物の生息・生育地

(7) 多様な生態系

南アルプスは、麓から山頂まで2,000mにおよぶ標高差があり、暖帯から寒帯までの比較的明瞭な植生の垂直分布が見られます。標高に応じた多様な植生帯と独特な地形が、多種多様な動植物を育み、様々な生態系を形成しています。

動植物は、互いに「食べる－食べられる」の関係を持ち、複雑な食物連鎖を形成しています。

イヌワシやクマタカといった大型猛禽類、ツキノワグマ、ホンドキツネ、オコジョといった中・大型哺乳類などは、南アルプス広域を生活圏とし、様々な動物を食物としています。このような、食物連鎖の上位に存在する種の生息基盤は、南アルプスに育まれた様々な自然環境に依存しています。

また、南アルプスの麓には人々が生活し、林業や畑作等の人間活動により里地里山環境が維持されてきました。ヤマネやムササビなどの哺乳類、フクロウ、ヤマセミなどの鳥類、ニホントカゲ、シロマダラなどの爬虫類、アズマヒキガエル、モリアオガエルなどの両生類、アカザ、カジカ、アマゴなどの魚類、オオムラサキ、ミドリシジミ、オオイチモンジ、ヨツボシカミキリなどの昆虫類、クマガイソウなどの植物は、集落や二次林等の身近によく見られる人間と共生してきた動植物ですが、近年は絶滅が危惧されています。

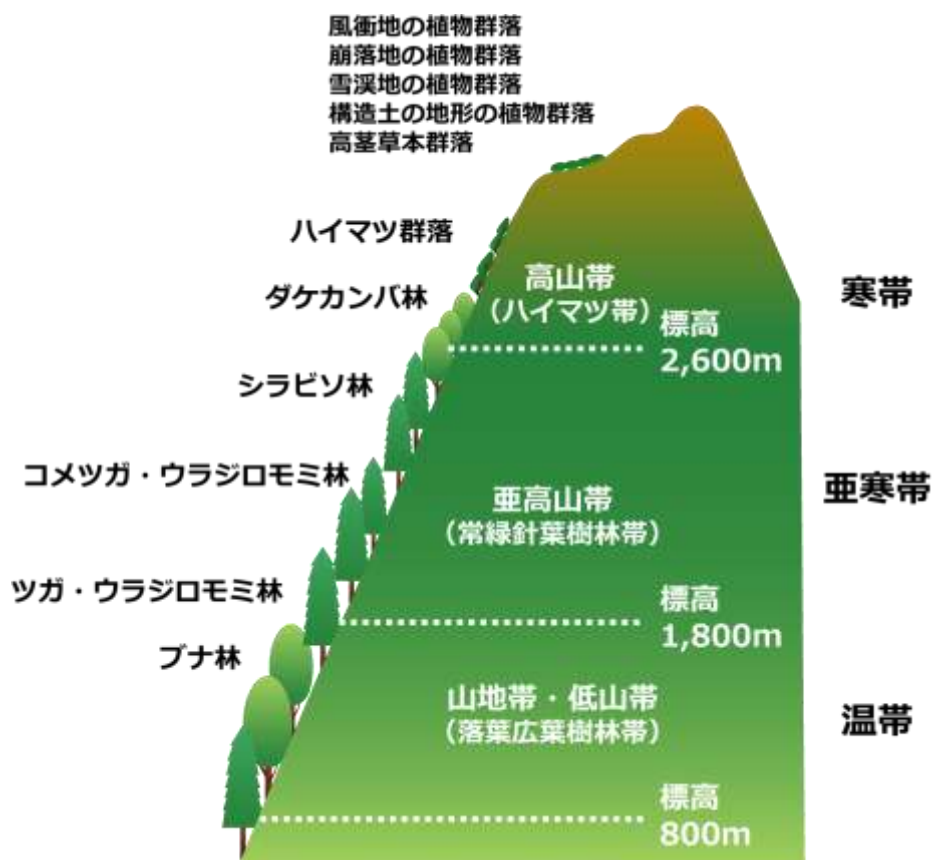


図 13 南アルプスの垂直分布



図 14 南アルプスの食物連鎖模式図

(イ) 南アルプスの生態系を特徴付ける注目種・群集

南アルプスの生態系を特徴付ける注目種や群集を、生態系の上位性、典型性、特殊性の3つの視点から抽出します。

<p>上位性</p>	<p>生態系の上位に位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生態系を形成する生物群集において栄養段階の上位に位置する種を対象とする。 ○該当する種は相対的に栄養段階の上位の種で、生態系の攪乱や環境変動などの影響を受けやすい種が対象となる。
<p>典型性</p>	<p>生態系の特徴を表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象地域の生態系の中で重要な機能的役割をもつ種・群集や、生物の多様性を特徴づける種・群集を対象とする。 ○該当するものは、生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うような種・群集、生物群集の多様性を特徴づける種や生態遷移を特徴づける種などが対象となる。
<p>特殊性</p>	<p>特殊な環境等を指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小規模な湿地、洞窟、噴気口の周辺、石灰岩地域などの特殊な環境や、砂泥底海域に孤立した岩礁や貝殻礁などの対象地域において占有面積が比較的小規模で周囲にはみられない環境に注目し、そこに生息する種・群集を選定する。 ○該当する種・群集としてはこれらの環境要素や環境条件に生息が強く規定される種・群集があげられる。

◆上位性◆

ツキノワグマ、ホンドキツネ、オコジョ、イヌワシ、クマタカは、ほかの小動物を捕食する、生態系において栄養段階の上位に位置する動物です。河川内においてはイワナ類やアマゴがこれに該当します。これらの種が生息するためには、餌の量などの一定条件が満たされる広い範囲を必要とするため、生態系の攪乱や環境変化などの影響を受けやすい種と言えます。

◆典型性◆

ヒメネズミ、ニホンジカといった大型動物の餌資源となる種や採食により植生に強い影響を及ぼす種、ハイマツ帯、高山植物群落（お花畑）*、常緑針葉樹林帯（亜高山帯）、落葉広葉樹林帯といった広範囲に分布する植物群集は、南アルプスの生態系の形成に関わる重要な種です。

◆特殊性◆

南アルプスには、南アルプスの特殊な環境に依存して生息・生育している種、特異な分布域を有する種、特異な生活史を持つ種及び群集が存在します。

ひょうがいそんしゅ
氷河遺存種*のライチョウをはじめ、アカイシサンショウウオ、テカリダケフキバツタ、ミヤマシロチョウ、クモマベニヒカゲ、クモマツマキチョウは南アルプスを特徴づける種です。

どうけつ はいこう じゅどう
コウモリ類は、洞穴、廃坑、樹洞などの特定の環境をねぐらとしています。一部の種は、原生林に近い林や天然林などを餌場とするため、生息が可能な環境が限定されています。

南アルプスが世界の分布の南限であるハイマツや、ムカゴトラノオ、タカネマンテマ、ミヤマハナシノブなどの氷河遺存種、ムカゴユキノシタ、タカネマンテマなどの国内では南アルプスにのみ分布する種など、学術的に重要で希少な植物が多く存在しています。

表4 構成要素（貴重な動植物の生息・生育地：生態系）

区分	構成要素		エリア
上位性	哺乳類	●ツキノワグマ	核心地域 緩衝地域 移行地域
		●ホンドキツネ	
		●オコジョ	
	鳥類	●イヌワシ	
		●クマタカ	
	魚類	●イワナ類	
●アマゴ			
典型性	動物	●ヒメネズミ	核心地域 緩衝地域 移行地域
		●ニホンジカ	
	植物群集	●ハイマツ帯	
		●高山植物群落（お花畑）	
		●常緑針葉樹林帯（亜高山帯） ：シラビソ林、コメツガ・ウラジロモミ林、ダケカンバ林	
●落葉広葉樹林帯：ブナ林、ツガ・ウラジロモミ林			
特殊性	哺乳類	●コウモリ類	核心地域 緩衝地域 移行地域
		●カワネズミ	
		●トガリネズミ	
	鳥類	●ライチョウ	核心地域 緩衝地域 移行地域
	両生類	●アカイシサンショウウオ	
	昆虫	●テカリダケフキバツタ	
	昆虫	●ミヤマシロチョウ	
		●クモマベニヒカゲ	
		●クモマツマキチョウハヶ岳・南アルプス亜種	
		●オオイチモンジ	
	●カラフトホソコバネカミキリ		
	植物	●ハイマツ	核心地域 緩衝地域
		●ムカゴトラノオ	
●タカネマンテマ			
●ムカゴユキノシタ			
●アカイシリンドウ			
●サンブクリンドウ			
●ミヤマハナシノブ			

上位性



ツキノワグマ



ホンドキツネ



ホンドオコジョ



イヌワシ



クマタカ

典型性



ヒメネズミ



ニホンジカ



ハイマツ帯



高山植物群落(お花畑)



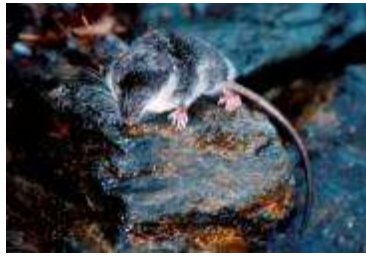
シラビソ林



落葉広葉樹林



ヒメホオヒゲコウモリ



カワネズミ



トガリネズミ



ライチョウ



アカイシサンショウウオ



テカリダケフキバツタ



ミヤマシロチョウ



クモマツマキチョウ



オオイチモンジ



ムカゴトラノオ



タカネマンテマ



ムカゴユキノシタ



サンプクリンドウ

写真：ホンドオコジョ、ニホンジカ、ハイマツ帯、落葉広葉樹林、テカリダケフキバツタ、高山植物群落（お花畑）；『南アルプス学術総論』

写真：ツキノワグマ、ホンドキツネ、イヌワシ、クマタカ、ヒメネズミ、ヒメホオヒゲコウモリ、カワネズミ、トガリネズミ、アカイシサンショウウオ、ミヤマシロチョウ、クモマツマキチョウ、オオイチモンジ；NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク

ライチョウ；狩野謙一

シラビソ林、ムカゴトラノオ、タカネマンテマ、ムカゴユキノシタ、サンプクリンドウ；増澤武弘

(ウ) 貴重な動植物

(ア)で述べた多様な生態系には、元々の個体数が少ない種や、様々な要因によりその個体数を著しく減少させている希少種に分類される動植物が生息・生育しています。希少種はレッドデータブック（RDB）及びレッドリスト（RL）に選定されており、特に減少の著しい種や愛好家による採取の危険性のある種については法律や県条例により採取が厳しく規制されています。

◆植物◆

南アルプスの植物相は多様性に富んでいますが、特筆すべきものは、亜高山帯から高山帯にかけての厳しい環境の中で、多様な地形地質に適応した植物が生育していることです。

特にムカゴユキノシタ、ムカゴトラノオ、アカイシリンドウ、サンブクリンドウ等の南アルプス固有種や、ハイマツ、タカネマンテマといった氷河遺存種などの分布限界種*は、生育可能な場所が限られており、地域個体群の絶滅が種の絶滅につながるため、種の多様性や種の保存上重要な種です。

これらの種の中には静岡県 RDB、環境省 RL の選定種、種の保存法・県条例の指定種が多く存在します。

表5 構成要素（貴重な動植物の生息・生育地：植物）

区分	構成要素	エリア
南アルプス固有種	●ムカゴユキノシタ ●ムカゴトラノオ ●アカイシリンドウ ●サンブクリンドウ 等	核心地域
分布限界種	●ハイマツ ●タカネマンテマ 等	核心地域

◆動物◆

猛禽類

南アルプスには、イヌワシ、クマタカといった希少な大型猛禽類が、生態系の上位に位置する種として存在します。イヌワシは開けた場所を、クマタカは深い森林地帯を狩場としており、狩場による棲み分けをしています。異なる生息環境を要求する2種の存在は、南アルプスの自然環境の多様性を表しています。

哺乳類

森林、特にミズナラなどの落葉広葉樹林を中心に生息するツキノワグマ、深い谷が形成する渓流域に生息し、水生昆虫や魚類を餌とするカワネズミや、大きな石が堆積したガレ場を好み、ネズミ類や鳥類を餌とするホンドオコジョ、人里から高山帯まで広く生息するホンドキツネなど、上位性種が数多く生息しています。

分布限界種

赤石山脈の名を冠するアカイシサンショウウオを始めとした南アルプス固有種や、オコジョ、ライチョウのように南アルプスを分布域の南限とする分布限界種の存在は、南アルプス特有の自然の重要性を表しています。

コウモリ類

分類群として特筆すべきものは、確認されたコウモリ類の種数の多さです。洞穴や廃坑をねぐらとする種、樹洞をねぐらとする種、原生林に近い林や天然林を好む種など、多種多様なコウモリ類が生息していることが、南アルプスの多様な環境を表していると言えます。

昆虫類（多様なカミキリムシの生息）

「南アルプス奥大井地域学術調査団報告書(静岡県 昭和50年)」によると、221種のカミキリムシが記録されており、その他の調査記録を加えると278種にも達します。これは静岡県の323種の約86%、日本全体の約700種のうちの約40%に達し、南アルプスは非常にカミキリムシの豊富な地域であると言えます。

カミキリムシは、森林依存性が強く、後翅が退化し飛べない種や風の吹き上げによって飛翔する種、花、葉、朽木や生木など餌が異なる種など、種によってそれぞれ異なる生態を持っています。多様なカミキリムシが生息するためには、森林に小規模な伐採など適度に人の手が入り、明るく開けた場所に多くの草花が生育している多様な環境があることが理想的です。

表6 構成要素（貴重な動植物の生息・生育地：動物）

区分	構成要素	エリア
生態系の上位種	<ul style="list-style-type: none"> ● イヌワシ ● クマタカ ● ツキノワグマ ● ホンドオコジョ ● ホンドキツネ ● カワネズミ 等 	核心地域 緩衝地域 移行地域
南アルプス固有種	<ul style="list-style-type: none"> ● アカイシサンショウウオ ● アカイシコバネブキバツタ ● テカリダケフキバツタ ● タカネキマダラセセリ南アルプス亜種 ● キタダケヨトウ 等 	核心地域 緩衝地域 移行地域
分布限界種	<ul style="list-style-type: none"> ● ライチョウ ● オコジョ ● タカネヒナバツタ 	核心地域 緩衝地域 移行地域
	<ul style="list-style-type: none"> ● クモツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種 ● オオイチモンジ ● クモマベヒカゲ本州亜種 等 	核心地域 緩衝地域 移行地域

コラム 「カラフトホソコバネカミキリ」

カラフトホソコバネカミキリは、御嶽山麓と大井川上流に分布しており、生息環境が限られた貴重なカミキリムシです。上肢が退化し、透明な下肢で飛ぶため、ハチ類によく似ています。

大井川上流では主としてカラマツに産卵するため、分布している地域のカラマツ林を保護しなければ大井川上流西俣地域の個体群は絶滅する可能性があります。



写真：増澤武弘

③伝統的な文化や産業が守る里地里山の自然

◆焼畑農業◆

井川地域で古くから盛んに行われていた焼畑農業は、火入れをしたハタケ（焼畑）で3～4年間作物を栽培した後、ヤブ（藪）に戻し、地力が回復するまで20～30年程待ってから、またハタケにする循環的な農業でした。人間活動によって様々な段階の自然環境がモザイク状に形成され、多様な自然環境に多様な生物が生息・生育していました。

しかし林業の発達や、ダム工事によって現金収入が得られるようになると、次第に焼畑農業は行われなくなりました。田代諏訪神社の祭礼（ヤマメ祭り）に用いるアワ（粟）だけが焼畑農業で作られてきました。

近年、伝統的な焼畑農業の技術と心を継承しようと、地域の有志によって、焼畑の文化を伝える取組が進められ、焼畑農業で栽培されていたヒエ（稗）、モチアワ（糯粟）、ソバ（蕎麦）等の雑穀が在来作物として栽培されています。

また、大井川上流には、焼畑の出作り生活に利用されていたイゴヤ（居小屋）*が点在しており、かつての山村文化を象徴する景観が残されています。



火入れ



コウボウキビ



収穫

◆林業◆

南アルプスの木材は良質材とされ、江戸時代から駿府城や江戸城の御用木等に使用されてきました。

昔、材木の輸送は、鉄砲堰を川に造成し、何ヶ月もかけて流して運ぶ「川狩り」を行っていましたが、1965（昭和40）年に二軒小屋の上流から山梨県側の西山温泉まで運ぶロープウェイ「白剥索道」が完成してからは、伐採した木材を直接市場に輸送することができるようになりました（現在稼働していません）。そしてこの頃から、皆伐主体の林業から、択伐方式によって天然更新を試みる自然環境に配慮した林業が行われるようになりました。しかし、1906（昭和39）年の丸太・製材品・合単板などの輸入自由化、円高による外材の相対的な価格の低下、プラスチックなどの木材代替材の開発などで国産材価格は下落し、林業は低迷するようになりました。

現在は、木材生産だけでなく、国土の保全をはじめ、水源のかん養、自然環境の保全、保健休養の場の提供といった多面的機能をもつ森林への社会的なニーズが高まっており、森林を保全する取り組みが行われています。

◆漁業◆

漁業の対象は、主にアマゴ、イワナ、ウグイです。前述のヤマメ祭りの祭礼に用いるヤマメ（学術的にはアマゴに属する）は、地元の人々に神聖な場所とされる「明神谷」で採られます。この谷は周年禁漁となっていますが、祭りの時だけ捕獲が許されており、地域文化が貴重な資源を守ることに結びついています。



アマゴ

写真：『南アルプス学術総論』

表7 構成要素（伝統的文化や産業が守る里地里山の自然）

区分	構成要素	エリア
農業	●焼畑農業とイゴヤ（居小屋）	移行地域
	●在来作物 …ヒエ（稗）、モチアワ（糯粟）、ダレキビ（ホンキビ（本黍とも呼ぶ）、ホモロコシ（高黍）、コウボウキビ（弘法黍）、ソバ（蕎麦）等	
林業	●良質で広大な人工林と天然林	移行地域
漁業	●アマゴ、イワナ、ウグイ	移行地域

(2) 学術的研究支援の機能

①自然を守り、文化を継承するための教育

◆環境学習◆

本市は、行政と民間の協働により、自然を守り文化を継承するための教育を推進しています。2013（平成25）年から市内の高校生を対象とした高山植物保護セミナーを実施しており、南アルプスで起こりうる自然環境の変化を学ぶとともに、防鹿柵の設置作業等の体験を通じた環境保護意識を醸成しています。



高山植物保護セミナーの様子

また、静岡市井川少年自然の家は、井川少年キャンプセンターと静岡市中央体育館井川分館を併設し、年間を通じて、学校の教育活動や青少年団体の自然体験活動などに利用されている他、「トムソーヤキャンプ」等の自然に触れ親しむ各種事業を実施しています。



トムソーヤキャンプの様子

さらに、大井川流域の森林を所有する特種東海製紙株式会社は、自社の環境憲章を定め、環境保護と企業発展の両立に努めています。その中でグループ会社の株式会社特種東海フォレストは、親会社が所有する井川社有林の多目的利用を図るため、二軒小屋ロッジ、榎島ロッジ、稜線の登山小屋、南アルプス白簷史朗写真館等の運営、自然とふれあうためのイベントの開催や情報発信、入山者のマナー意識を高める啓発活動など南アルプスの適切な保全と活用に向けた活動に取り組んでいます。

◆エコツアーリズム◆

2008（平成20）年、井川地域住民主体で構成する「南アルプス・井川エコツアーリズム推進協議会」が設立され、静岡市井川少年自然の家と連携しながら、井川地域の自然や歴史、食文化等を活かした体験プログラムを提供しています。



エコツアーリズムの様子

表8 構成要素（自然を守り文化を継承するための教育）

区分	構成要素	エリア
環境学習	●静岡市井川少年自然の家のアクティビティー …自然体験活動、集団宿泊訓練、里山文化体験活動 等	移行地域
	●高山植物保護セミナー	核心地域 緩衝地域
	●企業の実組 …イベント、情報発信、森林体験・林業体験	移行地域
エコツアーリズム	●南アルプス・井川エコツアーリズム推進協議会のエコツアー ※体験プログラムは64頁参照	移行地域

②自然を守り、文化を継承するための調査研究、保全・保存活動の場

◆調査研究◆

南アルプスにおける調査研究は、南アルプス世界自然遺産登録推進協議会や各県の学術検討委員会等において進めています。本市では、南アルプスの森林植生や希少な動植物、地形地質に関する文献・現地調査や、ライチョウや高山植物の現状把握のための現地調査等に取り組んでおり、南アルプスの学術的知見が集約されています。これにより、保護が必要な種やその手法が検討されています。

また、井川地域の豊かな自然と歴史文化を象徴する伝統行事や信仰、それらの背景となる雑穀文化、地域固有の在来作物、伝統工芸等の生活文化を将来に継承し、保存していくため、考古、歴史、民俗資料の調査研究を行っています。



中野観音堂の千手観音像



在来作物（おらんど）

◆保全・保存活動◆

本市では、ニホンジカによる高山植物の食害状況を踏まえ、前述の高山植物保護セミナー等において、防鹿柵の設置等の活動を行っています。静岡県では、2002（平成14）年に「南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク」を設立し、ボランティアによる高山植物の保全活動（高山植物の分布調査、ニホンジカの食害調査）や啓発活動（啓発看板の設置、啓発パンフレットや水溶性ティッシュの配布、講演会開催）等を行っています。

また、伝統行事や焼畑技術、雑穀栽培技術、食文化等を保存継承するため、地域住民との協働による担い手育成に取り組んでいます。



ボランティア活動（左：茶臼岳における防鹿柵設置 右：塩見岳におけるヤシマット敷設）

写真：南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク



高山植物保護セミナー（千枚小屋周辺における防鹿柵設置）

表9 構成要素（自然を守り、文化を継承するための調査研究、保全活動の場）

区分	構成要素	エリア
調査研究の場	<p><自然環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ライチョウの保全対策に係る調査研究 ●動植物の生態系・生物多様性調査 ●ジオサイトの調査 等 <p><歴史文化等></p> <ul style="list-style-type: none"> ●雑穀や在来作物と、それにまつわる生活文化に関する聞き取り調査、記録 ●生業、社会生活、信仰や伝統行事に関する歴史・民俗調査 	<p>核心地域 緩衝地域 移行地域</p>
保全活動の場	<p><自然環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ●高山植物の保護活動 <p><歴史文化等></p> <ul style="list-style-type: none"> ●雑穀栽培、伝統食、伝統工芸等の担い手育成 ●在来作物を活用した食品開発 ●伝統行事実施に対する支援 ●その他、考古資料、歴史資料、民俗資料の保存 	<p>核心地域 緩衝地域 移行地域</p>

(3) 経済と社会の発展の機能

①自然との共生により育まれた地域資源

◆歴史◆

割田原遺跡

田代地区の割田原遺跡では、縄文時代の土器や住居跡が発見されており、今から4,000～5,000年前には人々が生活していたことが分かっています。

集落の成立ち（山梨県、長野県とのつながり）

井川地域は本市葵区の最北の地区で、南アルプスへの玄関口となる農山村地区です。大井川を挟んで「田代」^{たしろ}「小河内」^{こごうち}という集落があり、それぞれに特徴があります。

田代地区には、先祖が長野側から山を越えてきたという伝承があります。信州側から南アルプスの山々を越えてきたヤモード（山人）が、井川の村を山の奥から順に開発し、焼畑農業を営んできたと考えられます。

一方、小河内地区には、山梨側から来た武田氏の落人が住み着いた、あるいは笹山金山の人夫が山を下りて村を作ったという伝承があります。焼畑よりも木材加工や金採掘、木材運搬といった労働により生活してきたと考えられます。

川を挟んで向かい合う2つの集落ですが、そこに住む人々の来歴は田代が長野側、小河内が山梨側と異なり、生業の違いも見られます。

金山跡

戦国時代、安倍川と大井川の上流から大量に採掘された黄金が、駿河の支配者である今川氏の権力を支えていました。井川周辺には井川、笹山、金沢、捻切（ねじきり）の4つの鉱山があり、明治から戦前まで金の採掘が行われていました。最も大きな金沢鉱山は、1937～1943（昭和12～18）年の間頃、鉱夫約200人が働き、学校もあったということです。金の含有量が極めて高品質で、「ねじきり」の名称は金の大塊をねじ切って採取したことから付けられたと言われていますが、現在は閉山しています。

お茶壺屋敷跡

徳川家康は、井川大日峠に茶を保管するための蔵を建てさせました。夏の間、冷涼な高地で保管された茶は、秋に駿府城に運ばれ、家康本人や側室などが使用しました。茶の生産管理の特権を握っていたのは、「井川の殿様」と呼ばれる海野氏です。

明治に入り、茶は生糸と並び日本の代表的な輸出商品となりますが、1906（明治39）年、井川出身の海野孝三郎らの尽力により、清水港から茶が直輸出できるようになると、静岡市内は茶の集積地として急速に拡大し、清水港は日本一の茶の輸出港の役割を担うようになりました。



お茶壺屋敷跡

大日古道

大日古道は上下約 12km、幅約 60cm から 90cm 程度の細い山道で、約 100m ごとに 40cm 程度の観音様があり、大日古道に沿って 66 体が通行人の安全と無事を祈って地主や有力者が元禄年間に寄進したと伝えられています。樹林の中を通る山道からは、重い荷を担いで行き来した井川の人々の生活の歴史情緒が感じられます。



観音跡

中野観音堂、大日院

中野観音堂は、平安時代中期の作とされる十一面千手観音立像など計 5 体の仏像が安置されている御堂です。十一面観音像は、毎年 1 月 6 日のみ拝観できます。観音堂の祭りは、1 月 6 日と 2 月 7 日の二晩行われ、一晩中御堂で過ごしたことから「お籠り」と呼ばれます。参詣者には、里芋に味噌を付けた芋田楽が振る舞われます。現在は 6 日の晩に御開帳が行われますが、本来は 1 月 7 日の早朝、朝日が差し込むわずかな間だけ御開帳が許されたそうです。



中野観音堂

中野観音堂のすぐ近くにある大日院には、かつて大日古道沿いに祀られていた石仏や大日如来が奉られています。昔は幕府直轄地であったため、駿府城改築の用材はここで伐採されて駿府に運ばれました。

曹洞宗如仲派龍泉院

曹洞宗如仲派龍泉院は、山中まれに見る格式の高い寺院で、末寺が 9 つもありました。裏手には龍泉院の開基で、徳川家康に仕えて数々の武勲をあげた安部大蔵の墓があります。大般若経 600 巻や徳川家の茶壺などを所蔵しています。



龍泉院

日本山岳会創設の礎

南アルプス南部の登山は外国人によって始められ、中でも日本近代登山の祖と言われるウォルター・ウェストンは、1892（明治 25）年、日本アルプスの赤石岳に登り、その登山活動と日本研究について「日本アルプス—登山と探検」をロンドンで刊行し、この本が世界に日本アルプスの名を広めました。また、この本が日本人登山家との交流のきっかけとなり、1905（明治 38）年に日本山岳会が創設されました。

井川山岳会の創設

井川山岳会は、資料から1932（昭和7）年に「井川村山岳会」として設立されたと考えられますが、設立後の活動は明らかになっていません。戦後の復興に伴い、苦しかった人々の生活にも余裕が生まれ、登山をする人が増えてくると、1950（昭和25）年、南アルプス国立公園指定の運動が始まり、またその後の国体の誘致活動によって、国立公園指定の動きはさらに活発化しました。そうして1957（昭和32）年に開催された国体では、南アルプスで山岳部登山競技が開催され、井川の知名度が上がり、南アルプスを訪れる登山者がさらに急増しました。このため1959（昭和34）年に現在の「井川山岳会」が結成されました。井川山岳会は、交通の整備、登山道・宿泊施設等の整備、インストラクターの育成、気象観測、登山者の指導、山岳救助隊の創設等を行い、南アルプス国立公園の指定に大きく貢献しました。現在も夏山登山者への指導等を行っています。

◆伝統行事◆

田代のヤマメ祭り

田代諏訪神社では「ヤマメ祭り」と呼ばれる例大祭が行われます。焼畑で栽培するアワ（粟）と、明神谷という神聖な谷で釣ってくるヤマメ（学術的にはアマゴと呼ぶ）で、特殊な神饌「ヤマメズシ」が作られ奉納されます。2005（平成17）年11月に静岡県指定無形民俗文化財に指定されています。



ヤマメ祭りの様子

井川神楽

静岡県中部地方に広く分布する同系統の神楽の一つである「井川神楽」が、諏訪神社や井川神社の祭りにおいて奉納されます。神楽は数年に一度、井川の神楽伝承者が集まり、夜通し奉納される大神楽が行われ、多くの人で賑わいます。



井川神社の祭りにて奉納される神楽

ヒヨンドリ

小河内では、火伏せ（火による災害を防ぐ）のための行事であるヒヨンドリが元旦に行われます。大井川、天竜川流域を中心に様々な形で傳承されていますが、本市では小河内にだけ残されており、2000（平成12）年4月、市の地域登録文化財に指定されました。



ヒヨンドリ

また、ヒヨンドリには、「昔、小河内に住み着いた伊勢ソーホーなる人物が、村人たちの求めに応じて精巧な曲物作りの技術を教え、それとともにヒヨンドリを伝えた」という伝説があります。山から山へと遊行する民間宗教者が、様々な技術を携えて、各地に定住していったという歴史的背景をうかがわせる傳承です。

◆信仰◆

田代は、明治初年までヤマイヌ（ニホンオオカミ）の防除のため、柵に囲まれていたと伝えられています。ヤマイヌは人々にとって恐るべき存在でしたが、一方では焼畑を行う上で作物の害獣となるニホンジカやイノシシなどの天敵でもありました。田代や小河内では、傷を負ったヤマイヌを助けたところ、イノシシによる焼畑への害が無くなった、シカの肉を持ってきてくれたなどの傳承が伝えられていることから、適切な関係を保とうとしていたことがわかります。また、田代の大井神社では、ヤマイヌの図柄の神札を発行しており、疫病よけ、猪鹿よけとして用いられたという傳承があります。



ヤマイヌの御札と木像
出典：『南アルプス学概論』

◆伝説◆

井川地域には「てしゃまんく」「とくせいばあ」^{ちからじろうえもん}「力次郎衛門」といった力持ちの伝説が残っています。木材を切り出して里へと下ろしたり、大きな荷物を駿府へ運んだり、力が必要とされていて、力持ちに対する憧れがあったとも考えられます。

◆食文化◆

井川地域には、焼畑農業で収穫したアワ（粟）やヒエ（稗）、キビ（黍）を使った伝統食が残されています。ヒエの粉を使ったヘーダンス（稗団子）、ニギリゴナ（握り粉）、モチアワと餅米を使ったカミノモチ（神の餅）、ダレキビと餅米を使ったキビボッター（黍ぼた餅）、コウボウキビを使った焼餅、コウボウガキなどの様々な雑穀料理があります。近年、雑穀はたんぱく質、カルシウム、マグネシウム、ビタミン類を豊富に含んでおり、これらの栄養をバランス良く摂取する食材として見直されています。

また、井川地域に受け継がれている山の恵みとして、ニホンミツバチの養蜂によるハチミツがあります。春、野生のニホンミツバチを巣箱に定着させ、秋にハチミツを取ります。ハチミツは、主に薬として使われていました。肺炎、打ち身、眼病、痔、便秘、下痢など多くの薬効が伝えられています。昔は奥山に雑木が多く、ニホンミツバチが多く生息していました。今も、井川の集落内にはいくつもの巣箱が置かれ、採れたハチミツは健康食として愛用されています。



◆景観◆

井川地域からは、南アルプスの多様な自然景観を楽しむことができ、登山やハイキング、井川湖の渡船によってより間近に、迫力のある南アルプスを楽しむことができます。また、南アルプスの山頂からは富士山を楽しむこともできます。

本市では、南アルプスをより身近に感じてもらうため、赤石岳を望む樫島ロッジ付近に位置する牛首峠に設置したライブカメラの映像をホームページで公開しています。

◆イベント◆

美しい紅葉の景観を愛でながら行われる井川ダム祭りやもみじマラソン、春と秋に行われる赤石温泉まつりなどは、地域の伝統あるイベントで、地域住民が一丸となり、来訪者を迎え入れています。

また、徳川家康への献上茶を保管したという故事にちなみ、井川大日峠にお茶蔵が建てられ、「駿府お茶壺道中行列」が地元の方によって催されています。



もみじマラソン



赤石温泉まつり



駿府お茶壺道中行列

表 10 構成要素（自然との共生により育まれた地域資源）

区分	構成要素	エリア
歴史	● 割田原遺跡	移行地域
	● 集落の成立ち（長野県、山梨県とのつながり）	
	● 金山跡	
	● お茶壺屋敷跡	
	● 大日古道	
	● 中野観音堂、大日院	
	● 曹洞宗如仲派龍泉院	
	● 大井神社	
	● 諏訪神社	
	● 井川神社	
	● 日本山岳会、井川山岳会	
伝統行事	● ヤマメ祭り	移行地域
	● 井川神楽	
	● ヒヨンドリ	
	● 各地区のお堂のお籠り	
信仰	● ヤマイヌ信仰	移行地域
伝説	● てしゃまんく	移行地域
	● とくせいばあ	
	● カ次郎衛門	
食文化	● 雑穀を使った伝統食 …ヘーダンス（稗団子）、ニギリゴナ（握り粉）、カミノモチ（神の餅）、キビポッター（黍ぼた餅）、焼餅、コウボウガキ	移行地域
	● 養蜂（ハチミツ）	
景観	● ビューポイントからの南アルプス 見られる場所：南アルプス赤石温泉白樺荘、山伏、リバウエル井川スキー場、井川大橋、静岡市井川少年自然の家、富士見峠、大日峠、牛首峠	移行地域
イベント	● 赤石温泉まつり（4月29日）	移行地域
	● あまご祭り（5月4日）	
	● 南アルプス山開き（7月16日）	
	● 井川大仏秋の例祭（10月）	
	● 駿府お茶壺道中行列（10月下旬）	
	● 井川ダム祭り（11月3日）	
	● もみじマラソン（11月10日）	
	● 雪まつり（2月）	

雑穀を使った伝統食の作り方

出典：『山に生きる人々の知恵—大井川最上流部の民俗文化—』

ヘーダンス（稗団子）	
	<p>ヘーダンスは稗の収穫時に欠かさず作りました。神棚の神や山の神に供え、近所にも配ったりしました。ニギリゴナよりも手がかかるのでヘーダンスは「ぜいたくだった」という人もいます。</p> <p>【材料】 稗の粉 500g、湯、ハチミツ、味噌、塩 各適宜</p>
ニギリゴナ（握り粉）	
	<p>ニギリコ、ヘーコナ（稗粉）ともいって、生の新粉を握り固めただけの簡単な料理です。収穫したばかりの新鮮な稗の粉は、生で食べてもおいしい食べ物です。収穫の感謝を込めて、ニギリゴナやヘーダンスを神棚に供えました。甘みを出すための百目柿は、ヒエグラ（稗倉）に入れて洗を抜きました。</p> <p>【材料】 稗の粉 500g、洗抜きした百目柿 65g 砂糖 100g</p>
カミノモチ（神の餅）	
	<p>田代では、マメンモチ（豆餅）、栗餅と言っている楕円形の餅は、井川本村ではカミノモチと言います。正月に重ね餅といっしょに神棚に供えます。モチ粟に乾燥保存しておいたヤマゴボウ（モチゴボウ、オヤマボクチのこと）の葉を搗き入れ、さらに栗や大豆も搗き込みます。ヤマゴボウは、青い色、風味と粘りを出すために入れます。</p> <p>【材料】 ヤマゴボウの葉（生葉） 80g、モチ粟 5合、モチ米 5合、栗・大豆 各0.5合、塩 1g 砂糖 200g</p>
キビポッター（黍ぼた餅）	
	<p>キビポッターは、現在でもよく作られています。ぼた餅にする黍は、モチ種であるダレキビ（ホンキビ）を使います。</p> <p>【材料】 ダレキビ 1合4勺、モチ米 6勺、黄粉 50g、砂糖 出来上がりにかける程度の量、水 400g、栗の甘煮 1コにつき1粒（小豆餡の代用）</p>

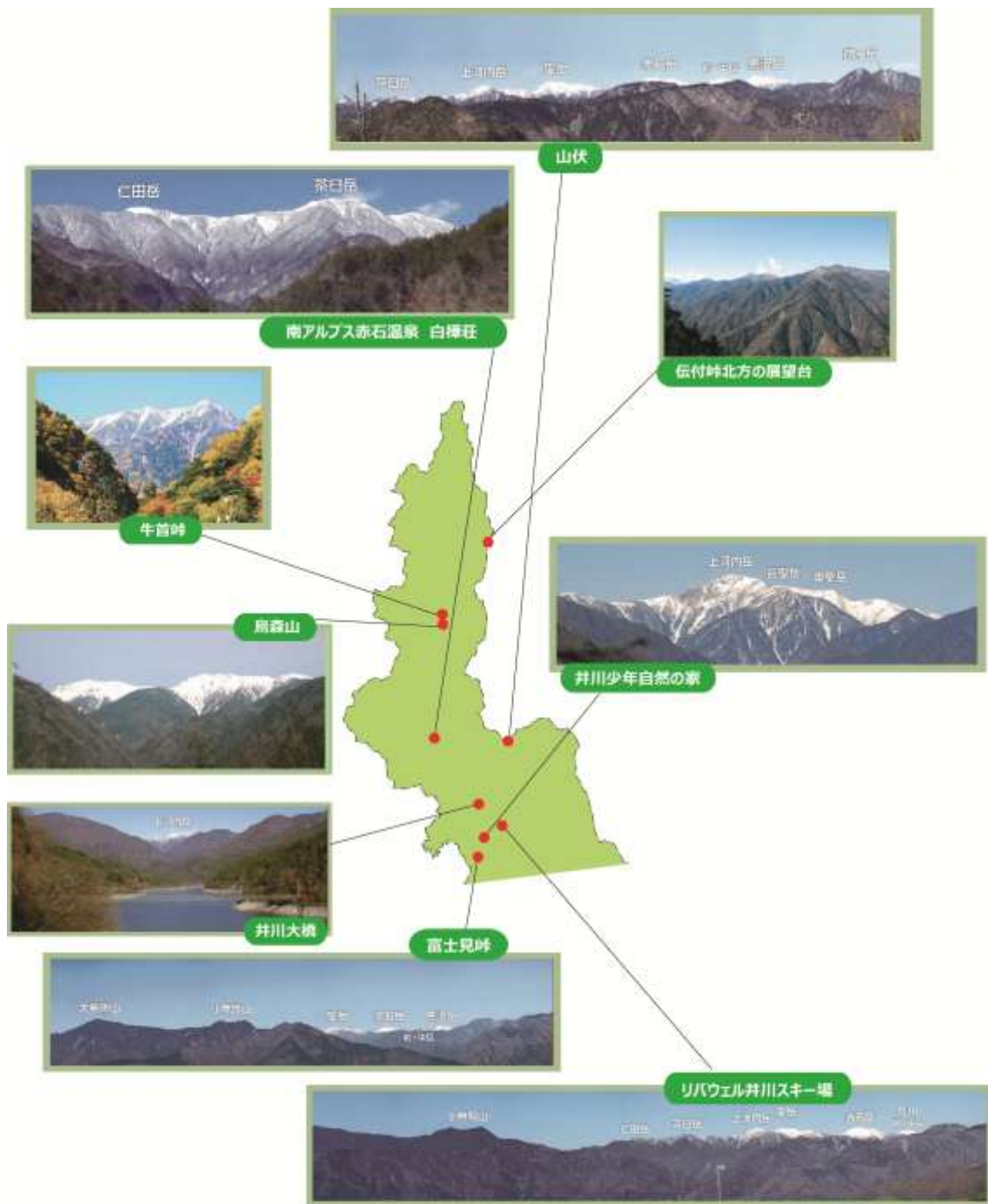


図 15 ビューポイントからの南アルプス

出典：『南アルプスビューポイントマップ』

コラム 「力持ち伝説」

◆てしゃまんく物語◆

昔、てしゃまんくは、井川の里で生まれました。赤ちゃんの頃から5人力の力持ちで、知恵もあるてしゃまんくには、山の動物達も勝てません。てしゃまんくが5歳になったとき、山奥に薪を取りに行きました。てしゃまんくが大木を揺らすと、たちまち枝の山ができました。ぐんぐんと成長したてしゃまんくは、親切で優しく、村人達から好かれていました。雨で壊れた橋も直してしまいました。井川から駿府の町までの長い距離を、てしゃまんくは重い荷物を持っているにもかかわらず、その日の内に行って帰ってくる事ができました。

ある日、てしゃまんくが駿府の町にやってくると、浅間神社の石鳥居を建てていました。皆で力を合わせても動かなかった何百キロもある大きな石を、てしゃまんくは簡単に持ち上げてしまいました。てしゃまんくが持ち上げた石柱は、今の左に傾いているということです。

出典：『井川のおかし話 日本一の力もち「てしゃまんく物語」』

◆とくせいばあ◆

昔、井川の田代に「とくせい」という女がいました。その怪力ぶりは並はずれ、ゆうに二十人力と言われていました。ある夏の夕暮れ、空が急に暗くなり、大夕立ちがやって来ました。とくせいばあは、川原に桶を据えただけの露天の風呂桶を「えいっ」とばかり持ち上げました。風呂に大の男が入っていると気づいていません。そのまま十間（十数メートル）ばかり離れている作業場の軒下まで軽がると運んでいきました。風呂につかっていた男の驚いたこと、驚いたこと。出るに出不れず大あわて……。また、川狩り（伐り出した材木を大井川に流し、島田まで運んだ）では、お釜を帽子の代わりにかぶると、向こう岸に男20人を立たせ、こちらに流れ着く材木を一人で押しやって、川を下っていきました。20人の相手をしながらも、力が余って、押しやった材木がポンポンと向こう岸にとび上がるので、男達は、「うひゃあ」とばかり逃げ回りました。とくせいばあが生まれてからは、田代には豪傑がとんと出なくなってしまうとき。

出典：『静岡の民話』

◆力次郎衛門◆

薬師堂にある「力試しの石」は、力次郎衛門が、力だめしに持ち上げていました。今ではその石は土に埋もれてしまい、ほとんど地表に出ていません。

力次郎衛門は、一回食べると一週間食べません。山で一週間ぐらい仕事をして帰ってきて、力試しの石を持って薬師堂を一回りして、まだ力があると言って下ろしました。力次郎衛門は、最後は稗の生粉（収穫が終わると稗を粉にして食べる）を団子にしてゆでたものを一升だか二升だか食べて腹を壊して死んでしまいました。

出典：『静岡県史民俗調査報告書第十四集 田代・小河内の民俗-静岡市井川一』

②自然と共生する地域の産業

◆農業◆

冷涼な気候を活かした農産物

井川地域は、茶やシイタケ、ワサビの栽培が古くから行われ、冷涼な気候によって穏やかに育つことから、濃厚な味わいを醸し出すところに特徴があります。井川茶は、川霧に包まれる山の斜面を利用して栽培されるため霧の香りがすると言われ、まろやかな渋味と甘みが特徴です。

夏になると井川地域ではトウモロコシや高原野菜の栽培が盛んに行われます。井川地域で育つトウモロコシやキャベツ、大根、白菜等の高原野菜は昼夜の温度差が大きいため甘みが強いところに特徴があります。

在来作物

近年、昔から井川地域で守り受け継がれてきた「在来」と呼ばれる伝統作物が注目されています。品種改良された現在の作物にはない風味を持ち、濃厚な味が楽しめます。

◆伝統工芸品◆

井川メンパは、小河内で盛んに行われていた砂金採りなどに使用する曲物づくりの文化と、漆塗の技術とが融合して編み出された井川の伝統工芸品で、今も48工程とされる細かい作業を受け継ぐ職人の手によって一つ一つ大事に作られ、その伝統が継承されています。

表 11 構成要素（自然と共生する地域の産業）

区分	構成要素	エリア
農業	●茶、シイタケ、ワサビ	移行地域
	●キャベツ、大根、白菜等の高原野菜、トウモロコシ	移行地域
	●在来作物 <在来野菜> 井川おらんど（じゃがいも）、井川在来蕎麦、井川黒がら（里芋）、井川なす、井川にら、井川大蒜（にんにく）、地這いきゅうり、小河内の地ねぎ、赤石豆、井川からし菜、井川の地かぶ、かきんのかぶ、緑小豆、井川の小柿、在来らっきょう など60種以上 <雑穀> ヒエ、モチアワ、サカアワ、ダレキビ、ホモロコシ、コウボウキビ など10種	移行地域
伝統工芸品	●井川メンパ	移行地域



井川メンパ

写真：『井川メンパの制作風景；山に生きる人々の知恵—大井川最上流部の民俗文化—』

<p>井川</p> <p>井川おらんど</p> <p>江戸時代から栽培されていたと考えられる在来のジャガイモです。「おらんど」の名前はオランダから白米に伝えられたこと由来しています。皮の色によって赤芋、白芋、黄芋などの種類があります。地元では、早でたジャガイモを炭火で焼いて、味噌をつけて田楽にして食べます。おでんに入るとおいしいことから「おでん芋」の別名もあります。</p>	<p>井川</p> <p>井川在来蕎麦</p> <p>産区には3系統の在来蕎麦があります。井川系統の在来蕎麦は、香りの幅が広く、食味の良い蕎麦であるとされています。井川系統は失われていたと思われていましたが、1軒の遺産で守り育てられていました。現在では地元の井川小学校でも種が守り継がれています。</p>	<p>井川</p> <p>井川黒がら</p> <p>古くから栽培される在来の蕎麦。井川の黒がらは「黒がら」「黒がら」「黒がら」など多くの種類があります。黒がらは今もなお、黒がらはホクホクとした食感が特徴です。「がら」というのは、蕎麦の茎の「芋がら(芋のきり)」の意味で、黒がらは、茎が黄褐色をしています。</p>
<p>井川</p> <p>井川なす</p> <p>井川で古くから食べられていたナスです。絶滅していたと思われるが、井川から能へお藤に行った方の家系で持ち帰りられました。大きくならざるほど、おいしくなると言われるナスです。</p>	<p>井川</p> <p>井川からし菜</p> <p>古くから栽培されるカラシナです。辛味の強いものから、辛味がゆるいものまで、地味ごといくつかの種類があります。味がしっかりしており、おひたしなどにして食べます。</p>	<p>井川</p> <p>井川にら</p> <p>ニラは中華料理のイメージが強いですが、古事記にも記されている古い野菜です。静岡県の山岡地区には数系統の在来のものが残っています。井川にもその一つです。小ぶりですが、生で食べられるほど甘味が強いのが特徴です。</p>
<p>井川</p> <p>井川の地かぶ</p> <p>井川ではカブとして食べられていますが、太い根っこが分かれているので、とてもカブのように見えます。これは実際にカブの一種ですが、根っこの部分をカブと同じようにして食べます。地味ごといくつかの種類があります。</p>	<p>井川</p> <p>井川大蒜</p> <p>小粒で赤い葉のニンニクです。肉質がしっかりしていて、粘りが強いのが特徴です。地元ではすりおろして唐辛子と合わせて、にんにく味噌を作って食べます。夏は味噌でも乾燥した辛子です。井川での呼び名である「おおびる」は、平安時代の書物にも記されるニンニクの古い呼び名です。</p>	<p>井川</p> <p>かきんのカブ</p> <p>井川はかつて金山として栄えました。昔、葉っぱのような金が隠れることから「はまん」と呼ばれ、転じて「かきん」となった場所があります。その地に残る在来のカブが「かきんのカブ」です。静岡県では在来のカブは極めて珍しい存在です。「深くて甘くて何ともいえない美味しさ」と評されています。</p>
<p>井川</p> <p>地這いキュウリ</p> <p>一般にキュウリは実を立って育てますが、このキュウリは赤くから地這いさせて育てます。昔は水浸代わりにも使われていたと言われるほど、水分たっぷりのキュウリです。地元では、味噌汁の具などにします。緑色のものや黄色いものなど、いくつかの種類があります。</p>	<p>井川</p> <p>緑小豆</p> <p>普通の小豆は赤い色をしています。この小豆はその名のとおり緑色をしています。しかし、あんこにすると、緑色ではなく、黒っぽい色になります。他の小豆よりおいしかったと言われますが、今ではほとんど栽培されていません。</p>	<p>井川</p> <p>小河内の地ねぎ</p> <p>井川最上流部の小河内地区で栽培されている青ネギです。小さいネギですが、とても甘味があるのが特徴です。</p>

在来作物

出典：『葵区在来作物ガイドマップ』

③自然を活かした地域振興

(7) ハイキングコース

井川地域のハイキングコースには、大きく分けて井川高原を中心に山伏等の自然を満喫できるコースと、井川湖畔を中心に吊り橋、神社仏閣等を巡るコースがあります。中でも「井川湖畔・井川本村周遊コース」では、井川ダム建設時に資材運搬のため整備された軌道の廃線が遊歩道として整備され注目されています。これら多様なコースは、個々のニーズにあわせた楽しみ方ができる、地域振興の資源の一つとなっています。



図 16 井川地域ハイキングコース

出典：井川情報ステーション HP

(1) 登山の拠点

静岡県側の山小屋は 15 か所整備されており、地域振興の拠点の一つとなっています。中でも、榎島ロッジは 150 人の収容が可能で、施設も充実しており、また様々な登山ルート(図参照)にアクセスしやすい場所に位置しています。ヘリコプターが着陸できる広いスペースがあり、夏期中は山岳救助隊の待機所として、登山指導、地元住民で組織される救助体制、山小屋相互の連絡体制による遭難防止対策を図っています。榎島ロッジに隣接する「南アルプス自然ふれあいセンター」は、登山者に対する情報発信施設です。

山小屋の利用期間は、概ね管理人が駐在する 7 月中旬から 9 月中旬となっていますが、それ以外は冬期避難小屋として一部が解放されています。



榎島ロッジ



南アルプス自然ふれあいセンター



二軒小屋ロッジ

(ウ) スキー場

リバウエル井川スキー場は、標高 1,400m に位置する市営のスキー場で、南アルプス、富士山、井川湖を望むことのできる、ゆるやかなゲレンデの家族向けスキー場です。夏季もスノーマットを使った夏スキーを楽しむことができます。また、自然観察会や羊の毛刈り体験、ノルディックウォーキング、パラグライダー等の自然に親しむイベントも行っており、地域振興の拠点の一つとなっています。

(エ) 釣り場

2013（平成 25）年から、株式会社特殊東海フォレストが管理する釣り場「大井川源流特設釣り場」が、二軒小屋～木賊堰とくさえんてい提間に開設されました。溪流釣りを楽しむことができる拠点となっています。

(オ) 鉄道

島田市や川根本町と井川地域を結ぶ大井川鉄道は、SL の動態保存と日本唯一のアプト式鉄道で全国に知られています。大井川に沿って、春の桜、初夏の茶畑そして秋の紅葉等、車窓からの豊かな景色を眺めながら、のんびりとしたローカル線の旅が楽しめます。鉄道駅は、観光客の来訪の拠点となっています。

(カ) 湖

井川湖は、井川ダム建設後、湖底に沈んだ道路の補償として井川湖渡船事業が始まり、その後観光客等の増加にともなって、遊覧を兼ねた渡船の運航が現在も継続して行われています。渡船から望む紅葉の景色が美しく、多くの観光客が訪れ、井川観光の拠点となっています。井川湖に掛かる大吊橋（井川大橋）は普通車で渡ることができるのが特徴で、スリル満点です。

(キ) 宿泊施設

南アルプスユネスコエコパークは、奥深い山岳地帯であるため、その魅力を満喫するためには、宿泊をともなう滞在型の観光が適しています。このため、宿泊施設が地域振興の拠点となります。

静岡市井川少年自然の家は、青少年がキャンプ、ハイキング、登山、自然観察など、自然の中で学び体験することができる施設です。施設内には静岡市中央体育館井川分館や井川青少年キャンプセンターが併設されています。

南アルプス赤石温泉白樺荘は、市営の温泉宿泊施設です。現在は観光や登山を目的とした宿泊客よりも、日帰り入浴を目的とした利用が多い状況です。

静岡県民の森は、野外レクリエーション施設として山小屋風のロッジやログハウスが整備され、家族連れで利用することができます。井川・梅ヶ島地区にまたがる約 1,000ha の広大な敷地にはブナやウラジロモミの樹林が広がり、井川湖、南アルプス・富士山を望むことができます。

井川地域の旅館、民宿は、現在 8 軒が営業していますが、現在は観光客よりも公共工事の施工業者の宿泊が多く見られます。

株式会社特種東海フォレストが経営する二軒小屋ロッジは、山小屋とは隔離したコンセプトを持つ宿泊施設で、地元の食材をふんだんに使った食事を自慢としています。そのため宿泊料はやや高値ですが、溪流釣りや周辺の自然散策を目的とする宿泊客が多く、特に10月の紅葉シーズンは満室になります。また、樫島ロッジは登山及び山岳救助の拠点になっています。



静岡市井川少年自然の家



静岡県県民の森



静岡市井川少年自然の家での活動（左：あまご体験 右：キャンプファイヤー）

(ク) ガイドや情報発信の拠点

南アルプス井川観光会館は、小さな子どもが楽しめる絵本の部屋のほか、喫茶・お土産コーナーがあり、井川の観光情報を得ることができます。

井川農林産物加工センター「アルプスの里」は、JA静岡市井川支店の主婦達が運営するお食事処で、季節ごとの井川の味を楽しむことができ、蕎麦打ち等の体験もできるほか、地域の観光情報も得ることができます。



南アルプス井川観光会館



アルプスの里

表 12 構成要素（自然を活かした地域振興）

区分	構成要素	エリア
ハイキングコース	●井川湖畔・井川本村周遊コース等	移行地域
登山の拠点	●南アルプス自然ふれあいセンター ●山小屋（熊の平小屋、小河内岳避難小屋、高山裏避難小屋、荒川中岳避難小屋、千枚小屋、二軒小屋ロッヂ、荒川小屋、赤石岳避難小屋、赤石小屋、百問洞山の家、聖平小屋、榎島ロッヂ、茶臼小屋、横窪沢小屋、ウソッコ沢小屋） ●南アルプス赤石温泉白樺荘	核心地域 緩衝地域 移行地域
スキー場	●リバウエル井川スキー場	移行地域
鉄道	●大井川鐵道（SL、アプト式鐵道）	移行地域
湖	●井川湖 ●井川湖渡船 ●井川大橋 ●夢の吊り橋 ●中部電力井川展示館	移行地域
釣り場	●大井川源流特設釣り場 ●あまごの里	移行地域
宿泊の拠点	●静岡市井川少年自然の家 ●南アルプス赤石温泉白樺荘 ●静岡県県民の森 ●井川地域の旅館、民宿 ●二軒小屋ロッヂ ●榎島ロッヂ	移行地域
ガイドや情報発信の拠点	●榎島ロッヂ ●南アルプス自然ふれあいセンター ●南アルプス赤石温泉白樺荘 ●南アルプス井川観光会館 ●静岡市井川少年自然の家 ●静岡県県民の森 ●井川農林産物加工センター「アルプスの里」	移行地域